

特徴的な芽球形態を示す CD7 陽性および *CEBP* α 遺伝子変異を有する急性骨髄性白血病を調査するための臨床データの研究利用についてのお願い

研究の概要・背景

急性骨髄性白血病の診断時に染色体が正常核型の場合、急性骨髄性白血病の予後中間群に分類され、日本造血・免疫細胞療法学会のガイドラインでは、第一寛解期での同種造血幹細胞移植が推奨されている。また、白血病細胞の表面抗原のうち **CD7** が陽性の白血病の患者さまの予後は比較的悪いと言われている。一方で、*CEBP* α 遺伝子変異を有する急性骨髄性白血病の患者さまにおいては、染色体検査で正常核型を呈する事が多く、また白血病細胞の表面形質に **CD7** 抗原が陽性である事が多いと報告されているが、比較的予後良好と報告されていて、第一寛解期での同種造血幹細胞移植の必要性は低い可能性がある。我々の研究の目的は **CD7** 陽性および *CEBP* α 遺伝子の変異を伴う急性骨髄性白血病の患者さまの臨床的特徴を捉え、その経過を後方視的に研究する事によって、*CEBP* α 遺伝子変異を伴う急性骨髄性白血病患者さまに対する最適な治療法を見出す可能性に繋がる事である。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

当院で診断され治療が行われた **CD7** 陽性の急性骨髄性白血病および *CEBP* α 遺伝子変異を有する急性骨髄性白血病の患者さまの臨床的なデータを後方視的に解析し、日本血液学会学術集会や、学術雑誌への投稿にて、結果を発表する予定。

対象者・期間

2012年4月以降に当院にて診断された、**CD7** 陽性の急性骨髄性白血病および *CEBP* α 遺伝子変異を有する急性骨髄性白血病の患者さま

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当医師：黒羽高志

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)